

ユネスコについて知り、心の中に平和のとりでを築こう

開倫塾

塾長 林 明夫

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。今朝は、ユネスコのお話をさせていただきたいと思います。

私は、開倫ユネスコ協会の会長をさせていただいております。今日はこの後 10 時から 11 時 50 分まで、栃木国際交流センターをお借りし、開倫ユネスコ主催の第 3 回開倫ポエム大賞の表彰式、素晴らしい詩を書きくださった方々の表彰式をさせていただきます。2186 作品の応募の中から、審査委員長は、佐野日本大学高等学校の北島先生にお願いしました。30 名の方が表彰されます。お時間のある方は、総合文化センターの近くにある栃木国際交流センターの方にお越しいただければと思います。

ユネスコというのは何かといいますと、これは国連の専門機関で教育、文化、自然科学、社会科学、コミュニケーションの 5 つの分野を担当しています。UNESCO の最初の UN は United Nations 国連の略ですね。その次の E は Education 教育、次の S は Science 科学で、C は Culture 文化、Communication コミュニケーションの 2 つを意味し、最後の O は Organization 機関です。その支援協会として日本ユネスコ協会があり、さらに日本全国には 300 のユネスコ協会があります。開倫ユネスコ協会もその一つで、今から 3 年前に日本ユネスコ協会連盟の承認のもとに発足をしました。

ユネスコの基本的な考えは、ユネスコ憲章の前文にあります。これは聞いたことがあるかもしれませんが、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」というおののです。そのあとには、「相互の風習と生活を知らないことは、人類の歴史を通じて世界の諸人民の間に疑惑と不信を起こした共通の原因であり、この疑惑と不信のために、諸人民の不一致があまりにもしばしば戦争となった。ここに終わりを告げた恐るべき大戦争は、人間の尊厳・平等・相互の尊重という民主主義の原理を否認し、これらの原理の代りに、無知と偏見を通じて人種の不平等という教養を広めることによって可能にされた戦争であった。文化の広い普及と正義・自由・平和のための人権の教育は、人間の尊厳に欠くことのできないものであり、かつ、すべての国民が相互の援助及び相互の関心の精神を持って、果たさなければならない神聖な義務である」と続きます。だからこそ、心の中に平和の砦を築こうと、平和運動をしているのがユネスコ活動であり、その一部であるのがユネスコ協会です。せっかくの機会ですので、御紹介させていただきました。

また、7 月 24 日から来週木曜日まで、栃木国際交流センターの企画展示室をお借りして、ユネスコ大使でいらっしゃる平山郁夫さんの平山郁夫美術館が収蔵しているブルガリアの高校生による平和への祈りという絵画展が開催されます。

2003年6月に東西文化交流の平山郁夫展が開かれ、ブルガリアを訪れたヒラヤマ先生がこれを歓迎して、ブルガリアの首都ソフィアの美術高校で平和のフェスティバルが開催されました。その時、その高校の生徒さんが、平和へのメッセージというテーマで描いた作品を、日本人に是非見てもらいたいということで、平山先生に託されました。

今回の栃木国際交流センターでの展示作品は、その時の美術高校の生徒さんによる作品と、バラの香りのする油の産出とバラ祭りで有名な町の美術学校の生徒さんに描いてもらった作品の中から選ばれた32点です。ブルガリアは、ギリシャとローマから近く、シルクロードとも密接な関係があって優れた文化遺産がある一方で、バルカン半島に位置しているため幾多の戦争や混乱に見舞われて、本当に平和への願いが強いそうです。そこの次代を担う美術高校生の平和への祈りが絵画に生かされて描かれていますので、是非、今回の開倫ユネスコ協会主催の絵画展へもお越しくください。